

油流出事故防止チェックリスト

I. タンクの設置について

- タンクは固定してありますか？
- 防油堤を設置していますか？
- 防油堤内部に溜まった雨水は、定期的に排水していますか？

II. 暖房機を使わない時期に気を付けること

- 暖房機を使わない期間は、タンクバルブを確実に閉めていますか？
（燃油が熱膨張することにより、配管内に圧力が生じます。
そのため、タンク側に逃がし管が設置されていない場合は、暖房機側のエア抜きコックを開け、そのコックの下に油受けを設置します。）
- 腐食・老朽箇所の点検・修理を行っていますか？
- 配管や配管接合部の劣化及び油が漏れた痕跡がありませんか？
- 劣化した給油ホースは交換していますか？
- 地下配管がある場合、埋設場所を把握していますか？
また、配管場所の目印はありますか？
- 耕起作業等で配管部分を損傷しないように十分注意していますか？

III. 暖房開始直前に気を付けること

- タンクバルブを開ける前にタンク残量を確認・記録しましたか？
- 暖房機試運転時に配管に沿って油漏れが無いか目視で点検しましたか？
- 点検の前後でタンク残量の大きな変化はみられませんか？
- 暖房機のエア抜きコックを閉めていますか？

IV. 賠償責任保険について

- もしもの事態に備え、賠償責任保険に加入していますか？
加入希望の方は、最寄りのJA各支店へご相談ください。

もし、油流出事故が発生したら・・・

速やかに管轄の消防署及び区役所に連絡してください。
また、流出元の確認や流出防止対策、油の回収等の応急処置を実施してください。

施設園芸農家の皆様へ

STOP! 油流出事故

熊本市では、農業用燃料タンクや配管から油が漏れ、河川等へ流出する事故が毎年発生しています。

流出した油の回収作業等には莫大な費用がかかり、その費用は、**事故を起こした者（原因者）が負担**することになっており、場合によっては、**損害賠償を請求されることもあります。**

さらには、**園芸産地としての信用低下にもつながりかねません！**
日頃から、定期点検を行い、油流出事故の防止に努めましょう。

発生状況とその対策

● 熊本市における油流出事故の発生状況

発生年度	件数	原 因	流出量
R 1 年度	1 件 (南区)	配管の接合部からの漏えい	最大1300 ℥
R 2 年度	4 件 (南区・西区)	配管の亀裂又は結合部からの漏えい 自動車衝突による重油タンクの転倒による漏えい	50～1000 ℥
R 3 年度	3 件 (北区・南区・西区)	配管の亀裂又は結合部からの漏えい	1800～2000 ℥
R 4 年度	1 件 (北区)	配管の結合部からの漏えい	約300 ℥
R 5 年度	3 件 (南区・北区)	配管の結合部からの漏えい	50～1900 ℥
R 6 年度	2 件 (南区・西区)	給油用タンク、配管の接合部からの漏えい	約300 ℥

※ R 1 及び R 2 年度の油流出事故では、**緑川まで油が到達**している。

流出事故の多くは暖房機運転開始時に配管から漏えい



事故を防ぐには運転開始直前の徹底点検が重要！！

暖房機運転開始直前の点検【チラシ内側】について、必ず実施する！！

暖房開始直前の点検

STEP 1

配管接合部のはずれがないか確認する



STEP 2

タンクの残量を確認し、テープやペンで印をつける



STEP 3

タンクのバルブ(元栓)を開け、配管内を重油で満たす



STEP 4

タンクから暖房機まで、配管に沿って油漏れが無いか目視で確認する



STEP 5

油漏れが無ければ、暖房機の電源を入れる(試運転へ)



STEP 6

一旦、タンクへ戻り、残量の変化を確認する

変化なし

減りを感じる

油漏れの場合、
大きく残量が変化

点検終了

直ちに、元栓バルブを閉め、
配管で油漏れが無いか再確認

回収費用及び賠償

● 油回収及び現状復旧の費用

流出した油を回収する費用や現状復旧にかかる費用は、[油流出事故を起こした人（事故の原因者）がすべて負担しなければなりません。](#)

重油タンク(1900 l)の約半分の重油が流出し、一部が河川に達した場合

オイル吸着マット	30～70万円
オイルフェンス	30～50万円
汚染土壤の除去・入替え費用	約400万円
使用済み吸着マット及び汚染土壤の処分費用	20～30万円
合 計	約500万円

※上記金額については、事故の発生状況や対応状況により変動します。

水路に溜まった重油の回収



オイルフェンスの設置



さらに、場合によっては
上記の自己負担の他に損害賠償請求が行われます。

● 損害賠償

流出した油が原因で、他の農作物や水産物などに損害を与えた場合、

例えば、

流出した重油が海にまで達し、その影響でノリの出荷が10%減少、ノリ網にも重油が付着してしまっているという被害が発生した場合、その損害賠償額をR1年のノリ産出額から試算すると……

[「約67億円（R3産出額実績）×10%+ノリ網の洗浄または交換費用」](#)
[=約7億円と、莫大な賠償額になります。](#)

また、風評被害などにより市場価格が下落した場合や事故の影響が複数年にわたる場合は、さらに賠償額がふくらむ可能性もあります。

【損害保険に加入していても、補償できない場合もあります】

保険契約の内容により、免責事項や賠償額の上限が定められている場合があります。
また、原因者自身の損害については、補償の対象外となっている場合もあります。

このような事態にならないよう、【裏面のチェックリスト】に沿って点検を行い、油流出事故を防ぎましょう！！